

# MR認定試験を抜本改革

## 学生も受験可能、就活の武器に

公益財団法人MR認定センターは、4月からMR認定制度の抜本改革を断行する。MRを「患者志向に立ち医薬品の適正使用に必要な情報活動を行う専門家」と位置づけ、MRに対する教育研修の充実や強化を図る。また、これまで22歳以上の社会人しかMR認定試験を受験できなかったが、薬学生でも受験が可能になり、MRを志望する学生にとっては、学生時代に認定試験に合格しておくことが、就職活動を有利に進めるための武器になるといえる。同センターの近澤洋平事務局長は、「認定試験の受験者のうち、薬剤師の比率は高まっており、製薬企業が薬剤師資格を持つ者を積極的に採用していることが分かる」と分析。「興味がある学生は、ぜひチャレンジしてほしい」と呼びかけている。

### MR認定センター



近澤事務局長

撤廃し、eラーニング等の個人学習によってカリキュラムを終了すれば、受験資格が得られる。

さらに薬学生の場合は、「医薬品情報」「疾病と治療」「MR総論」の3科目で構成されている基礎教育のうち、「医薬品情報」「疾病と治療」は大学4年間で履修していることから、近い将来これら2科目の受講を免除する予定だ。薬剤師資格保有者は、既にこれら2科目の受講を免除され、認定試験の受験科目としても免除されている。

近澤氏は、今回の受験資格の拡大について「将来を考えている薬学生の選択肢を広げたいと考えた。薬学という専門性を持った人材に、MRとして活躍することも一つの選択肢として考えてもらうためにも、学生の受験を可能にしたのは大きな突破口」と話す。

涯教育として毎年学習すべき」「MRによる情報提供が有効性に偏りすぎており、患者志向が欠けている」との意見が相次いだ。

そこで同委員会は、MRの将来ビジョンを「患者志向に立った医薬情報の提供・収集・伝達活動を通じて、医療関係者から信頼されるパートナーを目指す」と設定し、今後のMR教育は安全管理教育と倫理教育に重点を置くよう提言。履修時間を満たせば教育研修の修了とする「履修主義」から、教育研修の目標を設定し、目標達成という成果確認をもって修了とするという「習得主義」に舵を切った。

これにより、製薬企業はこれまで投

資していた300時間の基礎教育に対するリソースを他に振り向けられるようになる。

認定制度の改革に伴い、MR認定制度の基準を示したMR認定要綱も策定。MRの資質について、「医薬品の適正使用並びに薬物療法の向上に貢献する専門家として、必要とされる知識、科学的な根拠に基づき、医薬品の品質、有効性・安全性等の情報を提供、収集、伝達する技能並びに医療関係者とはもとより、患者・国民からの信頼に応える倫理観」と定義した。

近澤氏は、「まずMRがこのスタンスに立つことが重要。売上目標をもって活動すると思うが、今まで通りでは医療関係者から信頼されるパートナーにはなれない。定義づけたことを徹底することの先に医療への貢献があり、その結果として売上がある」とし、要綱策定に込めた思いを語る。

その上で、MRの職能について、「育薬の担い手」であると強調する。薬剤師は、患者に直接処方箋に基づく調剤や服薬指導を行い、医薬品が活用される最前線で働くこととなる。一方で、MRは患者に直接的な関わりはないものの、医薬品の適正使用に必要な情報を扱う。近澤氏は「臨床には様々な情報があり、MRがそれを収集し製薬企業にフィードバックすることで、より適正な使用方法が確立されていく。そういう意味では、MRは育薬を担う一番のキーポジションと言える」と話す。

さらに、「MRには幅広い視野が求められており、それゆえ将来の発展性がある。ジェネラルからスペシャリティーの領域、管理職や他部門、海外勤務など、自分の経験が将来のキャリア形成につながる大きな可能性がある」との見方を示す。

MRを志す薬学生には、「生か死の世界で戦う医療人をバックアップし、医薬品の適正使用情報の専門家になるためには、最初の3年間が大事。これは他の職業に就いた場合も同じで、分からないことを分からないと言える謙虚さと、向上心が成長につながる」とエールを送っている。

門性を持ったMRに対する期待値が高まっているとして、MR志望の薬学生に積極的な受験を呼びかけている。

受験資格は、センターが認定した企業（製薬企業等MRを雇用する企業）またはセンターが認定した導入教育実施機関（教育研修会社）で、所定の教育研修（導入教育の基礎教育）を修了認定されることである。これまでの制度では、所定の教育研修の修了要件は300時間の講義を受講することだったが、新制度では教育研修の履修時間を

### 適正使用の専門家に

一方、MRに批判的な意見があることも事実。今回の制度改革も、14年をピークにMR数が減少し始めたのと軌を一にして、MR不要論などが噴出したことへの危機感から実施された。

同センターは、MRの資質向上のためには、生涯教育の一環となる継続教育へのテコ入れが必要と判断。教育研修体制の立て直しのため、16年に立ち上げた継続教育検討委員会では、新入社員が導入教育で習得した基礎知識も試験終了と同時に忘れてしまう問題点が指摘され、「MRにとって必要な基礎知識を網羅したMRテキストを生

### 薬剤師の比率高まる

同センターがまとめた「2020年版MR白書」によると、MR総数は13年度の6万5752人をピークに、14年度が1095人減、15年度522人減、16年度950人減、17年度752人減、18年度2533人減となっており、19年度は過去最大の2742人減と6年連続で減少が続いている。

こうした中、認定試験合格者に占める薬剤師資格保有者の比率が高まっている。同センターによると、14年度の9.0%に対し、15年度が11.3%、16年度が14.5%、17年度が14.9%、18年度が16.9%、19年が18.3%と堅調な伸びを見せている。

近年は、新規の薬理作用を持つ画期的な新薬が数多く誕生しており、近澤氏は「医師や薬剤師が新しい薬理作用を持つ新薬を正しく理解し、適正に使用されるようになるには、MRによる専門性の高い情報提供が必要。また新薬には、未知の副作用、重篤な副作用が発生する可能性があることから、被害を未然に防ぐと共に、副作用被害が発生したとしても最小限に抑える必要があり、MRによる情報収集は欠かせない」と指摘。医療関係者からは、専

## MRのことをもっと知ってみませんか？



### まんが「MR物語」

～MRが医薬情報活動を通して医療の一翼を担うために～

何のためにMRになったか目標を見失いかけていた新人MRが、先輩の助言をきっかけにMRとして何ができるかに気づき、医療に貢献しようという気持ちで仕事に取り組むようになるという物語です。患者さん志向の医薬情報活動を通じて医薬品の適正使用に貢献するというMRの役割をわかりやすく漫画で学べます。

ご希望の方には無料でお送りいたします。下記までお気軽にお問い合わせください。  
mrsoushin@mre.or.jp

### MR誕生100周年記念論文コンクール入賞作品も公開中です。ぜひご覧ください！

テーマ：私が目指すMR

私が目指すMR 論文

検索



・私になりたいMRは

・相談されるMR

～アンメット・メディカル・ニーズを充足するために～



・医療者のパートナーとなるMRを目指して

・MRの存在意義

・患者さんと家族の笑顔を取り戻すために

・業務を通じた社会貢献

・ある桜の木から芽生えた私のMRとしての使命感 他